

福祉サービス第三者評価総合コメント みつわ台保育園

NPO法人 ヒューマン・ネットワーク

特に力を入れて取り組んでいること

1) 保育理念を共有し日々の実践の中で確認し合い、全職員で保育目標の達成に努めている

保育理念、3つの基本方針、7つの指導方針、保育目標「現在を最もよく生き、望ましい未来を作り出す力を培う」を設定し、「目標とする子どもの姿」「目標とする園の姿」を明示している。実践するために具体的な計画が「保育のてびき」(68ページ)として纏められ、毎年4月の土曜日1日かけて全職員会議で再確認し共有している。「子ども達が健康で楽しく遊び、楽しく食べる、毎日笑ったり、泣いたりなど豊かに成長する環境を大切にしたい」という保育の思い・価値観を共有し、保育課程や指導計画、日誌に具体的に展開し理念の実践に向けて努力している。毎月の職員会議で指導計画の評価・反省や事例等を通して研修を行い、日々の実践の中で子どもの姿から保育のあり方を確認しあうことで職員は育っている。また、相談し易い・話しやすい指導体系が充実しており良いチームワークの中で「保育の思い」が実践されている。

2) 職員育成体系が優れており職員一人ひとりの保育者としてのレベルは高い

「保育士の階層別に求められる専門性」「保育士の研修体系として勤務年数別の期待される保育士像、研修課題」を明示している。職員は自己評価表(養護と教育5領域各項目別に園独自の確認項目を設定)で年4回自己評価を△○色分けで実施し課題と目標を定め主任・園長の面談を受け具体的な項目別の成長を確認している。また、年1回の園長面談では保育の見直しと課題等の自己評価をして価値観の話し合いや専門性の向上を図っている。外部の研修参加を積極的に勧め、希望を尊重し毎月多い月で7回少ない月で3回平均すると毎月5回外部研修に参加し、実践を理論で整理する様に心掛けている。新人は初めの1ヶ月「職場研修日誌」をつけ先輩・クラスリーダーから助言を受け、子どもの生活の場、子どもの関わり、専門性など感想文を書き、1ヶ月後は抱負や初心、指導してほしい事を書き、その後もこの記録を宝物のように大切にしている。職員育成体系が優れており職員一人ひとりのレベルは高いと思われる。

3) 保護者アンケートは高い評価結果であり子どもの成長の共有で高い信頼関係を構築している

保護者アンケートの結果は「大変満足」と回答された方が53%「満足」と回答された方が42%合計すると95%の方が満足以上回答と極めて高い評価であった。個別項目も90%以上の肯定的回答が多く当園への信頼の高さが窺い知れる内容であった。自由発言には園が目標としている「健康で楽しく遊び、食べる」等に関する意見が沢山寄せられ、全職員で保育の思いを実践し、子どもの成長を細かく連絡し保護者と共有している結果と思われる。

4) インクルーシブ保育を職員が共有し、子どもが安心して生活できる保育環境が整っている

保育のてびきの「実践に学び実践に返す」「保育職員の心得」の中に保育士としての基本的な考えや求められる姿を具体的に明示し、4月の会議で共有を図り確認している。保育士の求められる具体的な姿を基本に、障害を持っている子どもも情報を共有し全職員で見守り援助している。日々の実践を通し、保育士の子どもへの関わりや援助する姿が子どもの手本となり、子ども同士の関わりから育ちあう保育環境ができていく。更に、月1回、元養護学校校長の助言や指導を受けることで、子どもへの理解が深まり育ちを支える機会となっている。課題図書「インクルーシブ はじめての保育場面で考えること50のアイデア」を全職員が読み感想文を書き共有を図るとともに、園長が感想文を元に面談を行っている。職員の感想や考えを確認し自らの保育に活かす地固めとなっていることが伺える。園の取り組みや学びの場でインクルーシブ保育の理解を深め、園全体が豊かな保育実践に繋がっていると思われる。

さらに取り組みが望まれるところ

1) 話し合いを重視しているが忙しい現状があり、1日を分析し時間確保の検討を望みたい

月に約4回の会議の場で情報共有している。職員会議では各クラスのカリキュラムの報告・共有、安全確認、各係の報告、乳児会議・幼児会議では具体的な現場の対応相談、木曜会では行事の目的、企画の他、園内研修を行い職員の希望テーマで研修している。情報共有で一番大切なことは日々の実践を毎日話し合う事として職員間の対話を重視している。一方で職員の仕事は子どもとの関わりや環境設定を初め、記録、片付けと多岐にわたり、忙しく余裕が無い状況の中で、理念の実践を主体的に実行するため重要な対話の時間が取りにくい現状にあると思われる。現状を時間分析や仕事内容分析など試み把握し、また、会議の目的・効率を再確認し、対話の時間を定期的・継続的に確保する様に期待したい。

2) 様々な年代の地域住民の協力を得ながら、地域に根差した子育て支援の取り組みを期待する

子育てひろば・みつわだいが園内に併設され、地域の多くの親子が子育てを楽しむ場として利用している。保育園独自の取り組みとしては、日ごろから散歩で出会った方と挨拶を交し合ったり、地域の夏祭りへ参加、高齢者施設への訪問、運動会のお誘いなど地域の方との触れ合いを大切にしている。さらに、地域への発信を工夫し、様々な年齢層の方との関わりを深め、協力を得ながら、子育て支援の輪を広げていくことで、保育の基本方針として掲げている「地域の様々な子育て支援」を更に推進していけると期待される。今後地域全体で子育てを見守る拠点として、保育園の持てる機能を発揮していけることを期待したい。

(評価を受けて、受審事業者の取組み)

激変する保育ニーズの展開と対応のあり方について大きな課題であり、「すべての子どもに対する例外のない保育」を保障するための羅針盤となる目標を目指して第三者評価を受審いたしました。これから不可欠な質の向上は、キャリアパスを見据えた体系的な研修計画を作成し、職員が共有して保育園全体として保育の量的ニーズと質的ニーズの変化に対応できるよう見直す良い機会となりました。